

インフォシス InStep、4年連続で「ベストインターンシップ・プログラム」の 評価を獲得

インターン参加者はキャリア形成、研修・メンタリング制度、人脈構築、国際的な機会を高く評価

バンガロール（インド） - 2021年12月1日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである[インフォシス](#) (NSE, BSE, NYSE: INFY)は本日、同社が力を入れるグローバル・インターンシップ・プログラムのInStepが「2021年 Vault インターンシップ・ランキング（2021 Vault Internship Rankings）」で「ベスト総合インターンシップ・プログラム」のランクを獲得したことを明らかにしました。このランキングはキャリア・インテリジェンス組織の[Vault.com](#)が発表しているもので、インフォシスは4年連続で同ランクを獲得した唯一のグローバル企業です。

InStep は以下の部門で第1位を獲得しました。

- テクノロジーおよびエンジニアリング業界のベスト・インターンシップ
- 報酬、雇用見通し、人脈構築の機会、キャリア形成全体、職務の質、クオリティ・オブ・ライフ、実生活の体験、研修・メンタリングにおけるベスト・インターンシップ
- ソフトウェア・エンジニアリングおよび開発、戦略および事業開発における役割別のベスト・インターンシップ
- 全体的な多様性のベスト・インターンシップ

Vault は、学生や卒業生のキャリア指導とエンゲージメントの一流プラットフォームである Firsthand と提携しています。

Firsthand の編集者はランキングの発表に際して次のように述べています。「インフォシスの InStep インターンシップ・プログラムは見事に4年連続で1位を獲得しました。InStep のインターンはこのプログラムを非常に高く評価しており、多様な経歴を持つ従業員の面倒見の良さやサポート、協力の文化、エキサイティングでやりがいのあるプロジェクト、ワークライフバランスの良さ、スケジュールの柔軟性、トップレベルの報酬、メンタリング、人脈形成、学習機会について称賛しました。」

世界的に医療危機であるため、Infosysの InStep はすべてのプログラムがオンラインのリモート形式で行われ、39 か国の大学 123 校を代表する 250 人余りのインターンが参加することができました。InStep は報酬全額支給のインターンシップで、財務サービスや戦略エンジニアリング・グループ、人工知能（AI）、データ分析、サーバーセキュリティなどの事業部門のリアルタイムのプロジェクトに携わる機会が与えられます。また、インターンに明確なキャリアアップ計画を提供しており、それにより昨年は条件を満たす 7 割以上のインターンがフルタイムで雇用されました。

Infosysの Pravin Rao 最高執行責任者（COO） は次のように述べています。「今回の高い評価は、教育や学習、有意義な活動を通じて人材を養成し、スキルや能力を高めることに弊社がコミットした結果として現れたものです。Infosys InStep はデジタルプラットフォームと学習ツールの力を融合することでインターンの安全を保証するとともに、地域を問わず最高の学習体験を提供するというプログラムの趣旨を全うしています。新たな働き方へとシフトが進む中で、弊社は全ての若き人材の有意義な未来形成と成長を後押しし導くエコシステムを育み続けます。」

ケンブリッジ大学の MBA プログラムの副学長で組織理論の准教授である Thomas Roulet 博士 は次のように述べました。「Infosys InStep の今回の受賞を非常に喜ばしく思います。Infosysとケンブリッジ大学は長年、学生や卒業生、学部ぐるみの実り豊かな関係を育んできました。個人的には、当校の学生のキャリアパスに大いに資する人事アプローチやその他話題のトピックについてのInfosysの同僚の皆様との定期的な議論をいつも楽しんでいます。」

ケロッグ経営大学院のデジタル革新学部副学部長で技術革新研究センター長である Mohanbir Sawhney 教授 は次のように述べています。「Infosysとケロッグ経営大学院は長年のパートナーであり、Infosys InStep インターンシップ・プログラムの影響力の存続を目の当たりにするのは素晴らしいことです。このプログラムは、サイバーセキュリティや IoT、機械学習といったInfosysの技術領域の最も秀でた頭脳面と学生をつなぐことで、没入型の学習体験を提供しています。今後もInfosysと長くアカデミックな体験の提供において連携していきたいと思います。」

Infosysについて

Infosysは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、世界 50 か国以上でお客様のデジタル変革を実現しています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様のデジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない

高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NSE, BSE, NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースの記述は、当社の将来的な成長や財務予測、COVID-19 による従業員や顧客、利害関係者への影響の管理計画など、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項に規定される「将来予想に関する記述」が含まれています。これらの記述は、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素およびその拡散を抑制するための政府やその他の対策の効果、インドや米国その他諸国における経済の悪化や景気後退に関するリスク、政情や業況、経済情勢の変化、利益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、当社のコスト優位性に影響を与え得る要因を含む IT サービス分野における競争の激化、インドでの人件費高騰、高い技能を持つ専門的な人材を採用し維持する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野のテクノロジーに対する需要の低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、当社が戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切りまたは終了、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢、訴訟や政府による調査の結果などがありますが、これらに限定されません。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクの詳細については、2020 年会計年度（2021 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）を含め、米国証券取引委員会に提出された当社報告書に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社が随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先

マーケティング担当 安藤 mktg_jp@infosys.com